

実地視察大学の概要

○課程認定を受けている学科等の概要

大学名		聖心女子大学		設置者名		学校法人 聖心女子学院			
学部・学科等の名称等			認定を受けている免許状の種類・認定年度		免許状取得状況・就職状況 (平成23年度)				
学部	学科等	入学定員	免許状の種類	認定年度	卒業者数	免許状取得者数		教員 就職者数	
						実数	個別		
文学部	日本語日本文学科	45人	中一種免(国語)	平成12年度	57人	6人	6人	1人	
			高一種免(国語)	平成12年度			6人		
	歴史社会学科	170人	中一種免(社会)	平成12年度	205人	6人	5人	1人	
			高一種免(地理歴史)	平成12年度			6人		
			高一種免(公民)	平成12年度			1人		
	哲学科 社会コース 宗教コース	40人	中一種免(社会)	平成12年度	36人	3人	3人	1人	
			高一種免(地理歴史)	平成12年度			2人		
			高一種免(公民)	平成12年度			2人		
			中一種免(宗教)	平成16年度			3人		
	英語英文学科 外国語外国文学科	90人	中一種免(英語)	平成12年度	119人	3人	3人	2人	
			高一種免(英語)	平成12年度			3人		
	教育学科 (教育・心理学専攻)	85人	中一種免(社会)	平成12年度	104人	8人	7人	13人	
			高一種免(地理歴史)	平成12年度			7人		
			高一種免(公民)	平成12年度			4人		
教育学科 (初等教育学専攻)	20人	小一種免	平成12年度	22人	22人	20人	16人		
		幼一種免	平成12年度			16人			
入学定員合計		450人	合計		543人	48人	97人	34人	
備考	・「学部・学科等の名称等」欄は、平成24年4月1日現在の名称・定員である。 ・「免許状取得者数」欄の「実数」欄は各学科等の実人数、「個別」欄は各学科等内の教職課程ごとの人数である。								

教職課程実地視察大学に対する講評

実地視察日：平成24年7月17日（火）

実地視察大学：聖心女子大学

実地視察委員：佐藤弘毅委員、狩野浩二委員、関根明伸委員

【全般的事項】

- 教員養成に関する教育課程、教員組織等については、全般的に基準を満たしている。
- 大学の教育理念である「聖心スピリット」に基づく「知性を磨く」、「使命感を自覚する」、「発信力、実践力を高める」という教育目標により、教員養成においても幅広い教養の重視、ボランティア活動の積極的な推進等がなされており、開放制による教員養成の積極的側面が十分に発揮されている。
- 教育課程について、「2.」で指摘するように、一部、教育職員免許法施行規則及び教職課程認定基準の観点から、改善すべき点が確認されたため、改善を図ること。

【個別事項】

1. 教職課程の実施・指導体制（全学組織等）

- 教科と教職の架橋の推進等の先進的な取組、教職課程のプログラムとしての体系性の確立、教職課程認定基準との整合性の確認等が、文学部に置かれる教職課程委員会が中心となって、学科横断的に取り組まれることを期待する。

2. 教育課程（教職に関する科目及び教科に関する科目）、履修方法及びシラバスの状況

- 社会情勢の変化に伴い、教育現場も柔軟に変化していくことが求められている。教育課程においてもICT教育やキャリア教育といった内容を含めるなど、時代に合わせた教育内容を取り入れるように努めること。
- 教職に関する科目（「教職入門」「教育学概論」等）において、教育職員免許法施行規則第6条第1項表に定める「含めることが必要な事項」が含まれているか否か、シラバスからは判断できない科目があるため、法令で扱うこととしている内容は必ず扱うとともに、シラバスにおいて「含めることが必要な事項」が含まれていることが明確にわかるようにすること。

○履修カルテは、教職指導や教職実践演習において効果的に活用されることが期待されているものであり、教職実践演習は、学生及び大学が、当該学生が、教職課程の履修を通じて、教員として身につけた資質能力の全体を明示的に確認するものである。このことを踏まえ、現在、学生のみが自己評価を記入することとしている履修カルテが、教職指導や教職実践演習において効果的に活用されるものか否かを検証し、必要に応じ、改善を図るように努めること。

3. 教育実習の取組状況

○母校において教育実習を行っている学生も多いが、やむをえず母校実習を行う場合は、大学が、実習校と連携し、教育実習に関わる指導体制を構築するとともに、実習校に対して、事前に、大学としての教職指導方針について説明を行うなど、公正な評価となるよう努めること。

4. 学生への教職指導の取組状況及び体制

○教員免許状の取得希望者が少数であるため、学生への指導が十分に行き届いている。
 ○履修カルテには教員からのコメント等が入るような項目が無い。教員が学生の良い点を引き出すような改善を検討していただきたい。
 ○学生が教育現場の中で起きている問題について知ることができるよう、教員経験者等の活用を検討すること。
 ○学生に対し、ボランティア活動を積極的に勧めているが、教職に関心のある学生が、早い段階から学校におけるボランティア活動等を通じて、教職の魅力や教員としての適性等を把握した上で、教員免許状の取得を目指すことは重要であることから、教職課程委員会を中心に、教育委員会や学校との連携・協力体制を強化・推進し、教育ボランティア活動等を教育課程や教職指導の中に組み込むことについて検討することを期待する。

5. 教育委員会等の関係機関との連携・協働状況（学校現場体験・学校支援ボランティア活動等の取組状況）

○大学の教育理念を踏まえ、積極的にボランティア活動に係る情報を学生に提供し、多くの学生が、地域の学校に関わっている実績もある。
 今後、教育委員会・学校と教員養成を担う大学との連携・協働による教員の資質能力の高度化が求められていることを踏まえ、大学側からも、地元教育委員会・学校に対し積極的に働きかけを行い、教職を志す学生が、早い段階から学校現場等に触れることができる環境を充実していくよう努めること。

6. 施設・設備（図書を含む。）の状況

- 教職課程室や研究室等、学生が主体的に学べるような環境が充実している。
- 学習指導要領、教科書のほか、教職関連の雑誌等が、教職課程室や教育学研究室、教育学生研究室等に分散して配置されており、最新の資料は図書館よりも研究室に置いているとのことであったが、学生がそれぞれの資料を有機的に活用出来るように、効果的な配置を検討すること。

7. その他特記事項

- 特になし